

令和元年度 山形県立庄内総合高等学校 学校評価書【分掌】

教育目標	心豊かに、たくましく生き抜く社会人の育成をめざし、知性と情操、自立と連帯、気力と体力を培う
スクール・モットー	『磨こう個性を 拓こう未来を』
目指す生徒像	(1)多様性を尊重し、人との関わりを大切に生徒
	(2)自己を理解し、自ら進む道を切り拓く生徒
	(3)高い志を持ち、よりよい社会の創造に貢献できる生徒
経営方針	スクール・モットー『磨こう個性を 拓こう未来を』の下、地域社会と連携しながら公益性の高い愛される学校づくりを推進する。
	(1)キャリア教育の充実と総合学科の特色を活かした魅力ある学校
	(2)生徒の多様な進路を実現する学校
	(3)人とのかかわりの中で、思いやりの心を大切に学校
	(4)社会に関かれ、地域と連携し、地域に貢献する学校

＜評価の基準＞  
A:達成度 80%以上  
B:達成度 60%以上  
C:達成度 40%以上  
D:達成度 40%未満

重点項目	重点取組	分掌	具体的方策	自己評価		課題と改善策	学校関係者評価 自己評価に対する評価	
				取組と達成状況	評価 中間 年間			
1 授業の充実による確かな学力の育成	①基礎学力の定着や学習意欲の喚起を促す授業研究と評価方法の研究	教務	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒および教員へ授業アンケートを行い生徒の学習意識の変化や指導方法の共有を図る。(年3回、テスト返却時)</li> <li>教室へ授業を受ける時の態度を示す標語を張り出し、授業の場面でも先生方に活用してもらおう。</li> <li>「話す人から話を聞いて話を聞く。顔をあげて聞く。話をしないで聞く」</li> <li>研究授業週間を設け、テーマを選択した上で研究授業をしてもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>結果をグラフ化し、結果をわかりやすく提示できた。</li> <li>ほとんどの教室に張り出された。これを活用した指導はまだ途上である。</li> <li>10月に研究授業週間を設けた。他の先生の授業の進め方や自分が受け持つ生徒の他の授業での様子などを知ることができた。</li> <li>電子黒板の講習会を実施。</li> </ul>	C B C B D A B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学力やモチベーションが2極化しているなかで、アンケートという手法が実態把握に即しているか検討する必要がある。</li> <li>「大事なこと」を生徒に見えるようにしたことは第一歩。次はこれを習慣的に呼びかけ、生徒の身体化を促すことである。</li> <li>研究授業を実施してもらっているが、同時に展開している授業が多く、見学者が少ない。解決は難しい。</li> <li>研修会を実施したが機能が複雑なので、使いたいが使っていない人も多い。簡単な利用マニュアルを整備したい。</li> </ul>	課題と改善策は全て記入してほしい。良かったことでも良いので。	
		進路	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎力診断テストの実施</li> <li>各年次での分析会や、研修会の企画</li> <li>各年次における進路課長講話の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各年次で計画的に実施</li> <li>分析会や研修会は企画しなかった。年次任せになっている。</li> <li>キャリア担当と打ち合わせをしながら話す内容を工夫した。</li> </ul>	A A B C A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画に入れて計画的に実施していく。</li> <li>必要に応じて分析会や、研修会を計画したい。</li> <li>時期応じて、各年次に必要と思われる内容を検討する。</li> </ul>		朝学習は自分もやって確かに勉強になったがやっていて面白くなかった。生徒主体でグループをつくりクイズ形式でやらせたらどうか。すべて社会に出るための自分自身の勉強だと理解させることが必要かと思えます。
		生徒保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会のルールや集団生活に必要なマナーを重んじる態度を育てる</li> <li>学校が安心できる学びの場となるよう、お互いを気遣うことができる心を育てる</li> <li>服装頭髪指導や言葉遣いなどの指導を通して、「凡事徹底」の確立を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯電話使用のルール違反や交通ルール違反などがあり、徹底できなかった。</li> <li>金銭盗難や休み時間や放課後の過ごし方などで、他人の迷惑となる場面があった。</li> <li>各年次での指導もあり、ほとんどの生徒は落ち着いた雰囲気で学校生活を送ることができた。</li> </ul>	B B B B B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会や委員会などを中心に、生徒同士が働きかける場面を増やしていく。</li> <li>持ち物や行動面での自己管理の意識が高まるような指導を心掛ける。</li> <li>一部の徹底できない生徒については、保護者からの協力も得ながら指導していく。</li> </ul>		
	総務図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>④新入生には年度初めに読書感想文を提出させ、読書を促す。</li> <li>④夏休みには、全生徒に読書感想文を提出させ、読書活動を推進する。</li> <li>④読書感想文の優秀者を表彰すると共に、文集を発行する。また、年間の多読者を表彰する。</li> <li>④授業やキャリア学習等で図書館を使用できるよう環境を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>④年次の協力のおかげで、96%の提出率</li> <li>④年次の協力のおかげで、94%の提出率</li> <li>④文集発行は年度末、感想文の優秀者は適宜表彰した。</li> <li>④環境はできうる限り整えている。</li> </ul>	A A A A B A A A		指導を心掛けるとは、具体的にどう心掛けるのか明示してほしい。		
	1年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>①年2回の基礎力診断テストの実施と分析を通して、生徒個々と集団の問題点を明確にする。</li> <li>②HRを通して学習する集団の雰囲気作りを徹底する。</li> <li>③学び直しを考慮した朝学習を計画的、継続的に実施する。</li> <li>④教科と協力し、読書感想文や長期休業中の課題提出の指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①問題点に対する次の効果的な一手が打てずにいる。</li> <li>②一部やる気のないを見失っているような生徒もいるが、全体としてはまじめに取り組んでいるといえる。</li> <li>③3教科で「学び直し」を意識した課題を与えている。取り組みには温度差があるようだが、継続して取り組みを励まして行きたい。</li> <li>③提出率が徐々に下がっている印象が強い。まだの生徒は粘り強く指導したい。</li> </ul>	B B A B A A A B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学び直し」が必要と思われる生徒を、その気にさせることが大きな問題である。自分にとってメリットを感じないと努力はできにくいと思われる。</li> <li>何のための「学び」なのか、自覚を促していきたい。</li> </ul>		上下関係関係はありつつも何でも話し合える雰囲気づくりを目指してもらいたい。「先生と生徒、先輩と後輩」	
	2年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>①朝学習を利用した学び直しを行うとともに、成績不振者対策の学習会を実施する。</li> <li>②朝学習と授業開始時のベル着並びに授業道具の準備を徹底させる。</li> <li>②資格試験や検定試験への呼びかけを行い、主体的な学習に向けた姿勢を身につけさせる。</li> <li>④教室への新聞導入と図書館の利用を働きかけ、読書に親しむ習慣を身につけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学び直しまでに至らなかった。成績不振者対策として行ったテスト前の学習会については、効果は出た者もいたが、そうでない者もわずかにいた。</li> <li>②朝学習は、基礎力診断テスト前にフアンウィークトライアルを用いて行った程度である。ベル着への姿勢ができていない者がいるので指導が必要である。</li> <li>③資格に対する意識は出てきている。主体的に学習しようとする生徒が少し出てきた。</li> <li>③帰りのSHRで新聞記事内容について感想を述べさせるクラスもあるが、読書習慣が身に付くまでには至っていない。</li> </ul>	B B C C B B C B	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習で就職に必要な漢字と計算を繰り返す行う</li> <li>着席指導から初めて行く必要がある。</li> <li>資格試験の情報を早めに提示していく</li> </ul>			
	3年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>①朝学習を通して、進路実現に向けた基礎力向上の徹底に努める。</li> <li>②資格試験や検定試験への呼びかけ並びに、自ら課題を探して取り組む姿勢の育成に努める。</li> <li>③朝学習や学習会等を通して、定期試験や小テストに対する計画的な学習の推進を図る。</li> <li>④昨年度以上に多読賞を受賞する生徒を増やせるよう、教科や図書委員会と連携しながら呼びかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①進路決定に至るまでの朝学習への取り組みは概ね良好であった。しかし進路決定後の取り組みが不十分な生徒が増えてしまった。</li> <li>②進路を意識し、資格試験や検定試験に積極的に取り組んでいたと感じた。課題を探して、というところまではもう一歩であった。</li> <li>③2学期中間までは概ね良好であった。2学期中間以降は気の緩みからか、取り組み状況は良いとは言いがたかった。小テストへの取り組みは年間通して概ね良好であった。</li> <li>④調べ学習や授業で図書館を利用することもあり、進んで本を借りる生徒や多読賞を目標に本を借りる生徒がいる一方、全く足を運ばない生徒もいた。</li> </ul>	A B B B A B B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎回時期に応じて内容を変えてはきたが、進路決定後の取り組みの意識付けが必要である、</li> <li>③進路決定後の学習内容や取り組みの工夫が必要。</li> </ul>			

重点項目	重点取組	分掌	具体的方策	自己評価		課題と改善策	学校関係者評価 自己評価に対する評価	
				取組と達成状況	評価 中間 年間			
2 キャリア教育の推進と進路指導の充実	①探求型学習の推進と自己実現を図るためのキャリア教育の充実	教務	・1年次の科目選択において、主体的に判断できるような、選択科目の全体像が見える資料を作成し、説明を行う。 ・卒業研究における「地域課題」に目を向けた研究の推進	新たな資料等を作成し、教科の概要がわかるような資料も作ったが、時間が限られていることもあり、生徒の理解はあまり深められなかったようである。 ・地域と連携をとりながら、計画的に進めることができた。	B B	B A	非常に多岐にわたる選択肢から、3年次まで見通しながら選択を考えるとということが、難しくなってきたと思われる。 課題に対する生徒の観点の持ち方や分析力に不足が感じられる。地域と連携する以前の訓練が必要である。	インターンシップなどキャリア教育を受け入れていただいている企業の皆様に感謝いたします。  町の事業に積極的に参加していることはとても良い。  進路が決まったら勉強をしなくなることだが、就職先に勉強すべきことを個別に教えてもらい、実践的な勉強をすることで即戦力になれるのではないかと。  外部講師も社長や経験者が教訓めいたことを話すより、卒業して2、3年の年齢に近い先輩から失敗談や学校で学ぶべきことを、とつとつ話してもらう方がすんなりと受け入れられるのではないかと。  先輩は後輩に話すことで自分ももっと頑張ろうという意欲が湧くと思う。2、3人先輩を呼んで小グループで話すと緊張もしないし、突っ込んだ話も出るとおもいます。生徒達の社会に出ることに不安をやわらげ、意欲を持たせるには最適だと思います。
		進路	就職・進学情報提供 キャリア総合における年次と進路課の連携。内容の検討等 講演会やセミナーの企画・運営 HRIに進路関係の書籍を配置する。	職員トイレ前廊(今年度から)や多目2、進路閲覧室等に必要な情報を掲示した。  担当者と連携を取りながら計画的に実施できた。  書籍は配置した。	A B A A	B A A A	生徒が必要な情報は提供できたが、特に多目2は整理が必要  キャリア総合や年次と連携しながら進めたい。  書籍の見直しや種類増を検討	
		生徒保健	・生徒会活動や委員会活動、部活動などを通して生徒の自主性を育む活動を展開する。 ・生徒の積極性を引き出し、地域との関わりなどについて自ら行動できるようにする。 ・カウンセリング体制の充実を図る。 ・外部機関と連携して教職員への情報提供や研修会の実施など支援体制の充実を図る。	・委員会活動や部活動などでは、生徒の満足度も高かった。 ・夏宵祭りや秋まつりなどでは、地域の方へ庄内総合高校をPRする良い機会となった。 ・継続的な取り組みにより、一定の成果をあげている。 ・今後とも生徒理解につながる取り組みを検討していく。	A A A B	A A A B	・今後とも生徒の要望を尊重しながら、自主性を引き出す指導を心掛ける。 ・次年度以降も成果を残せるように、引継ぎをしっかりと行う。 ・必要としている生徒・保護者に対して、さらなる有効活用を図る。 ・職員研修会等の充実を図る。	
		総務図書	②様々な式典を通して、傾聴力の育成を図る。 ④同窓会との繋がりを通して地域を愛する気持ちを育てていく。	②指導は繰り返しているが、生徒に個人差があり定着が難しい。 ④折に触れ、交流を深めている。	B B	B B		
	③個々の志望に応じたきめ細やかな指導体制の構築と実効的運用	1年次	①年次職員全員でのキャリア日誌指導を通して、生徒の意識を高める。 ②年次集会やLHRを通じての傾聴力・自己表現力の育成を図る。 ③総合面談を始めとして、面談を通して生徒の自己理解や進路意識の向上を図る。 ④インターンシップを通じて地域の人々とふれあい、地域についての関心や問題意識を向上させる。	①職員全員で分担して指導しているが、生徒の取り組みに差が出ている。 ②しっかり話を聞く生徒が多い反面、頭が下がってしまう生徒も出てきた。生徒自身による表現の場が設定できなかった。今後設けたい。 ③正副担任で協力して行うことができた。三者面談により保護者との連携も深められた。 ④一部欠席してしまった生徒がいたが、概ね取り組みは良好だった。	A A A B	B B A A	継続して生徒への前向きな取り組みを指導していきたい。  静かにして話を聞くことはできるが、受け身ではなく能動的に受け止めようとする姿勢を涵養する手立てを検討したい。  保護者と連携をとりながら粘り強く指導していきたい。  経験を今後のキャリア学習の礎にすることを意識させたい。	
		2年次	①キャリア総合での活動を通して、進路について具体的に考えることができるように図っていく。 ②外部機関を利用し研修会を行うとともに、発表活動を多く持つことで自己表現力の育成を図る。 ③カウンセリングや支援活動を通じて、生徒がうまくコミュニケーションをとれるよう働きかける。 ④企業見学を通し、地域との関わりなどについて自ら行動できるようにする。	①キャリア学習への取り組みによって進路について考えるようになってきているが、まだ具体的とまでにはいかない者も多い。 ②外部の講師による研修は、生徒の心を動かすには役立った。発表活動についても徐々に上達してきている。 ③多様な生徒に対するカウンセリングと支援により、なんとかこなしてきた1年間だった。生徒がうまく対話できるようになるには、まだ時間がかかりそうである。 ④企業見学を実施して、地域との関わりについては学ぶことができた。自ら行動するまでには至らなかったが、自分たちで歩いて回りながら見学するスタイルは、これからも継続してほしい。	B B A B	B B A B	生徒の支援とびカウンセリングを活用していく  自分たちで動く企業訪問は自分たちで動く部分は残してもよいのではないかと。	
	④郷土愛を育む教育の推進	3年次	①キャリア3の活動を通しての進路目標の具現化、また課題探求意識の育成に努める。 ②キャリア学習、年次集会等を通して、傾聴の姿勢ならびに各種面接指導に向けた自己表現力の育成を図る。 ③二者面談、三者面談を通しての進路実現に向けた指導と、職員間の情報の共有化に努める。 ④ふるさと探究を通しての地域課題の発見と、課題解決に向けた探究力の育成に努める。	①キャリア3の取り組みによって、進路目標を達成できた生徒は多い。特に面接指導で外部講師や評議員の方々のご協力をいただいた点は大きい。 ②傾聴の姿勢は概ね身に付けられた生徒が多い。しかし、聞いたことを生活の中に活かしていくという点ではまだ働きかける必要がある。 ③担任の細やかな面談のおかげで、生徒たちの多くが希望の進路先に進むことができた。 ④ふるさと探究では試行錯誤しながら最後まで取り組むことができたようだ。ふるさと探究から卒業研究に視点を向けた生徒もいた。	A B A A	A B A A		

重点項目	重点取組	分掌	具体的方策	自己評価		課題と改善策	学校関係者評価 自己評価に対する評価	
				取組と達成状況				評価
								中間 年間
3 心身の健康と安心・安全教育の充実	①「あいさつの庄総」の気風のさらなる向上と規範意識・マナーの確立  ②思いやりの心の醸成と心に響く生徒指導の徹底  ③自主的・自律的な生徒会活動の推進と部活動の活性化  ④「いのちの教育」の推進と「いじめ防止基本方針」に基づいた取り組みの徹底強化	教務	・ベル着席の推進(ベル着週間の設定)	・年度初め、および2学期初めに実施した。	B	B	生徒への注意喚起という意味で実施しているが、行事等も錯綜していて、生徒への意識付けの効果は薄かった。時期を考える必要がある。	若い人達は意見交換と討論、そしてお互いを認め合う場が大切になると思います。校則に伴う服装、髪色、盗難など色々な問題について、生徒たちはどうしたいのか、どうするのが良いのかを議論してみるのはどうでしょうか。  校則の話題ですが、髪の長さや色は、他人に迷惑をかけるものでも勉強を妨げるものでもない。健康を害するスマホやゲームは指導、規制すべきだが、髪などは必要ないので、高校生の人権もある。  生徒がルールを破った場合の対処として、事前に保護者に罰の承諾を得ることも大切かと思えます。  生徒の挨拶について、「先生がしないから生徒がするはずがない」という意見には異論がある。社会では目下の者から挨拶するのが当たり前で、先生からするには強要になり、自発的にする意欲を削ぐことになり、まさに先生がしないからという論法になります。社会では上司から挨拶することは考えられません。社会のルールをしっかりと教える必要があります。
		進路	廊下ですれ違う際の挨拶の励行 中央廊下の右側通行	3年次生は明るく元気な挨拶ができていると感じる。1年次生の成長に期待。  特にアピールはしていないが、何となく右側通行していると感じる。(特に3年次生)	B B	B B	上級生が手本となっているので、下級生の成長に期待したい。	
		生徒保健	・様々な行事、活動を通じて、生徒会・各種委員会・HR活動の充実、活性化を図る ・自他の生命を尊重する心を育て、「いじめを絶対に許さない」環境づくりを行う ・安全や健康に対する自己管理能力を高め、健全な学校生活の実現を目指す ・年次団との連携やSC面談を通して、心身の健康に課題を持つ生徒の支援を図る	・様々な行事を通して、生徒が活躍する場面を作ることができた。 ・「いじめ」関連で指導する生徒の数が減った。 ・「薬物乱用防止講話」を通して、生徒の意識を高めることができた。 ・必要に応じて、様々な場面で生徒への支援ができた。	A A B A	A A A A	・今後とも生徒が活躍できる場を積極的につくる。 ・生徒の不安や悩みについて、相談しやすい体制づくりを更に進める。 ・基本的な生活習慣が身につくように指導していく。 ・支援を必要とする生徒の情報収集に努める。	
		総務図書	①式典での礼法指導を通して、挨拶やマナーを身につけさせていく。 ④避難訓練だけでなく、普段から防災対策への意識を持たせていく。	①指導は繰り返しているが、生徒に個人差があり定着が難しい。 ④防災訓練は実施済み、11月にはシェイクアウトの訓練をした。	B B	B B		
		1年次	①あいさつの意識を高め、あいさつの具体的方法を示しスキルを向上させる。 ②相互を大切に思う必要性を、あらゆる場面で問いかける。 ③学校行事、生徒会活動、部活動に対して、自主的かつ積極的に参加する雰囲気作りに努める。 ④いじめにつながる生徒間の関係の変化を注視し、いじめに発展する前に関係改善を図るよう努める。	①年度初めの初々しさが次第に失われ、挨拶する雰囲気は希薄な印象である。 ②集団の中で、安易に他者の悪口を言い合ったりする実態があるようである。個別に指導を継続して加えている。 ③生徒会役員など、よく責任を果たしている。クラスの中でもリーダーシップを発揮できる人材を育成したい。部活動への参加しない生徒が増えている。 ④SNSでの暴言事案があった。他者への思いやりにかける言動が懸念される。保健課から協力いただき、「メンタルヘルス講演会」を実施予定である。	B A B A	C B B C	挨拶するのに必要な、勇気と言う気を涵養する取り組みを考えたい。 クラス編成に向けて考慮すべき事項を深慮し、一人一人の心がけがよりよい集団をつくる最大要素であることを生徒に訴えていきたい。 中堅年次として、後輩をリードできるよう指導していきたい。 来年度の新クラスでの動きだしには細心の注意をはらっていきたい。	
		2年次	①あいさつと身だしなみについて徹底して行っていくことで、その行いが習慣になるように努めていく。 ③善悪の判断を身につけさせる上で、生徒の声を聞くとともに生徒に常に目を配り、一方的な指導とならないよう配慮していく。 ②部活動、生徒会活動、学校行事へ積極的に参加するように呼びかけると同時に、部活動で3年次が引退する時をチャンスにリーダーの育成を図っていく。 ④学校生活を通し、他者をいたわり互いに共存できる多様性を身につけさせるとともに、修学旅行では他者に配慮する姿勢と自主的に行動できる姿勢を養っていく。	①毎日の声かけにより、徐々に習慣化してきているように思う。教員側から積極的に行うことで、できない者をもまだいるのだが、これからも継続してやっていきたい。 ②互いに理解し配慮できる姿勢はまだまだであるが、少しずつ育ってきていると思う。様々な機会を利用して問いかけ育てていきたい。 ③積極的に活動する生徒は出てきているが、逆にやめてしまう者がわずかであるが出てきている。活動を続けている者は、リーダーとしての自覚が芽生えてきている。 ④誰かのために動こうとする意識が出始めている。トラブルとなる原因が固定化してきているように思うが、なかなか解決には至らないでいる。	B A B B	B A B B	授業で氏名を呼びながら返事をし出席をとる習慣をつけていく。あいさつについても継続してやっていく。	
		3年次	①あいさつと身だしなみの徹底に努める。 ②相手を意識した行動、言葉遣いができるような雰囲気作りに努める。 ③生徒会活動、学校行事におけるリーダーシップの発揮と、クラスの団結力の醸成を図る。 ④生徒の様子を注視し、年次団をはじめ全職員やSCとの連携を図りながら、迅速に対応し改善を図るよう努める。	①進路活動を通して、あいさつができるようになった生徒は以前よりも増えた。しかし、身だしなみに関してはまだまだ違反の生徒がいる。年次全体で継続して指導していきたい。 ②相手を考慮した言動ができる大人の生徒もいる。一方、様々な行事や活動を通して呼びかけてきたものの、いじめや暴言など、自分の感情をコントロールしきれない生徒、自分中心の言動を取ってしまう生徒がいるのが現状である。 ③数々の行事や活動を通して自分の立場や行動を意識して行うことができる生徒が増えた。 ④年次団、生徒保健課との連携を図りながら、事が起きた段階でスピーディーに対応することはできた。	B B A A A A	B B A A A A	①進路決定後に気持ちの緩みからか、頭髪違反が増えた。呼びかけはするものの、全て改善させるまでに至らなかった。 ②SNSによるトラブル[いじめ]が出てしまった。思ったことをすぐに発信してしまうこと(恐ろしさ)を、継続的に呼びかけていかないといけないと感じた。	

重点項目	重点取組	分掌	具体的方策	自己評価		課題と改善策	学校関係者評価 自己評価に対する評価		
				取組と達成状況	評価 中間 年間				
4 地域連携と魅力ある開かれた学校づくり	①家庭や地域との連携・協働による教育活動の推進  ②生徒の主体性を活かした特色ある学校づくりの推進とボランティア活動の充実  ③学校ホームページの活用による積極的な情報発信  ④新たな学校づくりへの適切な対応	教務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観、オープンスクール、入試説明会でのわかりやすい情報公開を行う。</li> <li>・ホームページ活用を推進するとともに、円滑な更新を行う。</li> <li>・個人情報について、十分な配慮のもと、適正に取り扱う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンスクール等でわかりやすい説明はできた。</li> <li>・学校行事の紹介は、行事と教務課職員の出張が重なり、人員的不足で記録が取れない部分があり、ホームページへの公開ができない部分があった。</li> <li>・適切に対応できている。</li> </ul>	A	A	特に問題なく実施できている。	<p>生徒および保護者による学校診断アンケート結果にすべてが見えるように思います。是非、分析結果のように進めていただきたいと思います。</p> <p>第三公民館の活動に対して、生徒の皆さんや先生方から多大なご協力を賜り感謝申し上げます。</p> <p>3年次の「ふるさと探究」の活動は素晴らしい。1、2年次のうちに地域をもっと知ってほしい。1、2年次から「ふるさと探究」を行ってほしい。</p> <p>郷土愛を育むために、郷土の歴史や文化にも目を向けてほしい。</p>	
		進路	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA進路部会による模擬面接の実施</li> <li>就職や進学に関するセミナーや講演会の企画</li> <li>高校生と地元企業による交流会の企画・運営</li> <li>各年次による進路に関する3者面談の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA進路部会でない保護者の協力もあり充実した面接練習会ができた。</li> <li>年次のキャリア総合と連携して計画通り実施できた。</li> <li>昨年並みに実施。参加企業の工夫あるプレゼンが昨年よりパワーアップ。</li> <li>進路希望調査を材料に科目選択や進路についての面談ができた。</li> </ul>	A	A	保護者の協力感謝したい。面接会前までのしつけが大切。		
		生徒保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種ボランティア活動や地域行事(夏宵まつりなど)への参加を積極的に行う</li> <li>・地域へ学校をPRするための広報活動を充実させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各担当からの協力を得ながら、成果を残すことができた。</li> <li>・HPや生徒会新聞等の有効活用があった。</li> </ul>	A	A	・本校の良き伝統として、生徒たちにも意識させ引き継ぐ。		
		総務図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>①PTA評議員と連携し、保護者が学校教育に興味関心を持つような工夫をする。</li> <li>②PTAや同窓会の広報誌をホームページに掲載していく。</li> <li>③マメールを利用し、学校行事等について保護者に配信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①年次や各課の協力を得て、3つの部会を中心に活動できている。</li> <li>②随時ホームページに記載した。</li> <li>③使用についての連絡がおそくなってしまった。</li> </ul>	A	A	③マ・メールの入会者を増やすため、年度当初の新入生オリエンテーション時に入会の手続きをする時間を確保する。また、同様にマ・メールの使用について、各課・年次・各行事担当者にも年度当初に周知する。		
		1年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>①年次PTAやクラスPTAの開催を通して、保護者との共通認識で指導に当たることができるよう努める。</li> <li>②LHRなどを通してボランティア活動を計画的に実施する。</li> <li>③年次便りの定期的発行とホームページでのタイムリーな情報発信に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①年次PTAは10/18に実施した。夏休みに全員、必要な場合個別に適宜三者面談を実施している。</li> <li>②年次独自のボランティアは計画できなかった。</li> <li>③担当の尽力により、タイムリーに発信できている。</li> </ul>	A	A	年次Pのあり方については、役員とも相談の上あり方を検討していきたい。		
		2年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>①年次PTAを年3回以上行い、学校からの情報提供と保護者との交流活動を多く持てるように内容も工夫していく。</li> <li>①③2年次便りを月に2～3回発行し、年次の様子を保護者に伝えていくとともに、行事などの様子をホームページを利用し発信する。</li> <li>②LHRの年次企画の中で清掃ボランティアなどを生徒に考えさせ企画していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①年次PTAを3回とクラス懇親会を行った。3月にもう一回開く予定だが、保護者への情報提供は適宜行いながら交流を行っていきたい。</li> <li>①③年次便りは現在で11号である。月2～3回はできなかった。行事などはホームページなどに投稿することができ、保護者に生徒の様子を知らせることができた。</li> <li>②生徒に考えさせる企画やボランティア活動を行うことができなかった。</li> </ul>	A	A	PTAの参加率が低い。親子行事を1回ほど入れていくことで、関心を高めていく。		
		3年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>①年次PTAの年3回以上の開催と、参加率を上げるための開催1ヶ月以上前の告知の徹底に努める。</li> <li>③年次だよりの月1回の発行と、ホームページを通しての情報発信に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①年次PTAは事前の告知のおかげで参加率を上げることはできた。</li> <li>③年次だよりの発行は毎月発行することができた。ホームページはなかなか取り組むことができなかった。</li> </ul>	A	A	年次便りの発行回数は月1くらいでやっていく。		
									自分たちで考えさせていく活動を一つでも設ける。